

指定管理者の期末モニタリング

施設名	宮代町立コミュニティセンター進修館及びスキップ広場	年度	令和2年度
指定管理者	NPO法人 MCAサポートセンター	担当課	町民生活課
指定期間	平成30年4月1日～令和3年3月31日	期別	第2期
施設の目的	進修館は、市民活動や地域活動の拠点として、文化・芸術、コミュニティ活動を通じた町民の交流を深め、地域コミュニティの推進を図ることを目的とする。 また、スキップ広場は地域住民の憩いと活動の場を提供することによって、宮代らしい賑わいと魅力を創出し、もって地域の活性化を図ることを目的とする。		
業務の内容	(1)施設の運営に関すること。 (2)施設、設備及び物品の維持管理に関すること。 (3)施設の利用許可及び利用の取消し、制限等に関すること。 (4)施設の利用料金の收受、免除及び返還等に関すること。 (5)施設の設置目的にあった自主事業の実施に関すること。 (6)その他施設の目的を達成するために必要なこと。		

総合的な評価	
【総合評価】	A優良 0 B適正 14 C改善 0
当該施設は市民活動を支援する拠点施設として、適正に管理運営されていた。また、事業計画書に基づき、地元大学や市民団体と協力することで様々な事業を実施し、市民活動の活性化を図るとともに新たな利用者の発掘なども実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらずに長引いたため多数の事業が実施できない状況の中、いくつかの事業については対策を講じつつ実施していた。	
【評価事項】	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う利用制限等の不測の事態が発生したものの、町との協議の上、臨機応変に対応し、利用者の理解を得ながら大きな混乱も無く適切に管理していた。
【改善事項】	新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、自主事業について創意工夫のもと、新たな活動の提案をしてほしかった。

1. 施設の管理運営・事業	評価	B 適正
仕様書・事業計画書に基づき適切に管理運営業務を実施していた。 R1-R2 進修館及びスキップ広場利用者数 27,708人(前年88,033人)前年比-60,325人		
2. 利用者の公平確保	評価	B 適正
施設の貸出及び利用料金の徴収、免除申請等は条例及び施行規則に基づき、公平かつ適正に行われていた。		
3. 職員の配置、研修等	評価	B 適正
事業計画書に基づき適正な人員配置及び有資格者を配置し、事業を行っていた。また、新人研修等及びスタッフ会議を実施し、スタッフのスキルアップとスタッフ内部での情報共有化に取り組みサービス向上に努めていた。		
4. 施設の維持管理業務(清掃、植栽管理など)及び保守点検	評価	B 適正
清掃及び施設点検を事業計画書に基づき実施し、機能・安全面を確認する等、施設の維持管理業務は適正に行われた。また、利用者に対する接遇に心がけていた。		
5. 施設の修繕	評価	B 適正
日常の巡回・点検を行うことにより、軽微な修繕などは速やかに対応、緊急対応を含め利用に対して支障なく対応をしていた。		
6. 備品管理	評価	B 適正
備品管理台帳において備品の増減等、適切に管理していた。		
7. 安全・危機管理	評価	B 適正
緊急対策マニュアルに基づき、管理責任者を中心に災害発生時の避難訓練などを行うなど、安全の確保のための避難経路の確認や危機管理に対するスタッフ研修を実施していた。		

8. 個人情報の管理	評価	B 適正
町個人情報保護条例及び施行規則に準じたマニュアルを整備するとともに、スタッフ会議及び研修を実施し、個人情報の管理を徹底していた。		
9. 利用者ニーズの把握・反映	評価	B 適正
進修館運営協議会「維持管理部会」を開催し、施設利用促進について活発な意見交換を行い、利用者ニーズの把握に努めていた。		
10. 自主事業の実施	評価	B 適正
<p>事業計画書に基づく講座だけでなく、事業を通じて地域課題への提案ができる市民団体が、自主的に活動できるようサポートするなど、市民活動の拡大及び発展が図られる予定だったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため、計画どおりの自主事業は実施できなかった。</p> <p>しかしながら、いくつかの事業については、感染拡大防止対策を講じつつ、定員の減少や規模の縮小、実施方法の工夫などしながら実施できていた。</p> <p>「進修館百貨店」…施設利用制限のため、利用は減少したものの感染防止対策を講じてヒアリングし、施設利用を促進していた。プログラム数10件</p> <p>「進修館ファンクラブ」…つどいなどの事業は実施できなかったものの、SNSを活用して「進修館をアルバムにする」を動画配信したことで、進修館の新たな魅力を発進することができていた。</p> <p>「進修館をアルバムにする」…コロナ禍の中、ファンのつどいに代わる事業として日本工業大学生活環境学科勝木研究室との共催により実施していた。この事業を実施したことにより、進修館が市民にとってコミュニティの中心であることを再確認でき、進修館に関する様々な情報をアーカイブすることの重要性も認識できていた。</p>		
11. 経費節減	評価	B 適正
<p>清掃等は再委託せず、清掃スタッフにより業務を実施することでコストの削減に努めていた。</p> <p>また、施設設備の修繕についても、専任サポートスタッフ等が実施することにより、コスト軽減を図っていた。</p>		
12. 環境への配慮	評価	B 適正
館内の照明機器のLED化や環境に配慮した物品購入を実施していた。		
13. 利用者への情報提供	評価	B 適正
公式フェイスブックへの掲載や情報発信により、施設のPRや利用促進を図っていた。また、施設貸出業務のシステムにより、ホームページ上での予約情報の更新頻度が上がり、利用者サービスの向上が図られていた。		
14. 会計管理	評価	B 適正
経理担当スタッフを配置し、指定管理業務経費及びその他の経費、団体運営経費を区分して適正に管理していた。		